



学校だより



令和 8 年 9 月 1 日
江戸川区立新田小学校
第 5 号

安全について考える

校 長 鈴木 剛司

長い夏休みが終わり、2学期がスタートしました。そして、今年度も引き渡し訓練を初日に実施させていただきました。お忙しい中ご協力くださり、ありがとうございました。

今年はいつも以上にいろいろなことを考えながら、この訓練を実施させていただきました。それは、私が千葉市中央区に住んでいて、8月の線状降水帯による大雨を経験したからです。今までも情報として線状降水帯のことは知っていました。また、テレビで見て大変であることは理解しているつもりでした。しかし、実際に体験してみるとそれは全く別のものでした。

今回私の家は浸水するといった被害はなかったのですが、家族が仕事から車で帰ることができない事態が起きました。この時、数時間もすれば雨は落ち着くだろうという考えでいたので、強い雨が長時間続く中で、車の中で待ち続けるか移動するかで判断を悩むことがありました。最終的には待つという判断をし、朝明るくなってから動くことで無事に帰ることができました。しかし、帰る途中は、皆さんもご存じのように、たくさんの車が動けなくなって道に止まっている状況だったと知らされました。命を無くされた方もいて、自然災害の恐ろしさを実感させられることとなりました。

こうした経験から、引き渡しを行うには、子供たちと迎えに来る方の両方の安全を考え、学校での待機を含めタイミングがとても大事になること、不安な状況があれば待つ覚悟が必要なことなどを改めて学びました。（状況によっては待たない方がよいケースもあると思います。しっかりと状況を見極める力を養っていきたいです。）

防災といえば、1学期に他校で起こった学校火災に関連して、7月に避難用器具（滑り台式）の扱い方の研修と一部の教師による実際に滑る体験も行いました。業者の方がいてもかなり準備が大変なこと、滑る時には気を付けないと火傷をすること、滑り降りるのがなかなか進まず難しいことなどを学ぶことができました。

この夏は熊本での大地震の他、次々と発生する台風、当たり前のようになった酷暑への熱中症対策など、安全について考える機会がたくさんありました。本当に今までの当たり前が通用しないことがたくさん出てきています。

子供たちの安全を守るためには、災害への備えを行うだけでなく、子供たちに今まで以上に自分の命は自分で守る力を育てたり、災害を自分事として考えさせたりすることが必要です。保護者、地域、学校がしっかりと情報を共有し、様々なところで子供たちと災害やその対策について話したり、一緒に考えたりしなければいけないと考えています。

2学期も子供たちが笑顔で学校生活を送ることができるよう取り組んでいきます。今まで同様、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

